

ATZ201009_EJ

報道各位

2020年10月9日

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

アーティゾン美術館 2021年 展覧会スケジュール

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、2021年に開催する展覧会スケジュールを決定しましたので、ご紹介します。

2021年 展覧会一覧

	6階展示室	5階展示室	4階展示室
1月	琳派と印象派 東西都市文化が生んだ美術 会期:2020年11月14日[土] - 2021年1月24日[日]		石橋財団コレクション選 特集コーナー展示 青木繁、坂本繁二郎、 古賀春江とその時代 久留米をめぐる画家たち 会期:2020年11月3日[火・祝] - 2021年1月24日[日]
2月	Steps Ahead: Recent Acquisitions 新収蔵作品展示 会期:2021年2月13日[土] - 5月9日[日]		
3月			
4月			
5月			
6月	クロード・モネー風景への問いかけ オルセー美術館・オランジュリー美術館特別企画 会期:2021年5月29日[土] - 9月10日[金]		石橋財団コレクション選
7月			特集コーナー展示 マリノ・マリーニの彫刻と版画
8月			会期:2021年5月29日[土] - 9月10日[金]
9月			
10月	ジャム・セッション 石橋財団コレクション×森村泰昌	「教育普及活動」ってなに？ ——生きている美術館 会期:2021年10月2日[土] - 2022年1月10日[月・祝]	石橋財団コレクション選
11月	M式「海の幸」—森村泰昌 ワタシガタリの神話		特集コーナー展示 挿絵本にみる20世紀フランスとワイン
12月	会期:2021年10月2日[土] - 2022年1月10日[月・祝]		会期:2021年9月22日[水] - 2022年1月10日[月・祝]

* 都合により変更する場合があります。最新情報はウェブサイトをご確認ください。

琳派と印象派 東西都市文化が生んだ美術

会期：2020年11月14日[土]ー2021年1月24日[日]

前期:11月14日[土]ー12月20日[日]

後期:12月22日[火]ー1月24日[日]

*本展では展示替えがあります。展示期間をご確認のうえ、ご来館ください。



俵屋宗達《風神雷神図屏風》江戸時代 17世紀 建仁寺蔵(国宝)



エドゥアール・マネ《白菊の図》1881年頃 茨城県近代美術館蔵

(後期のみ展示：2020年12月22日[火]ー2021年1月24日[日])

琳派は、17世紀初めの俵屋宗達、18世紀初めの尾形光琳らによって、日本の都であった京都の町人文化として生まれ、19世紀初めに酒井抱一や鈴木其一らによって、将軍お膝元の江戸（現在の東京）に引き継がれた、装飾的な美感を核として発展した都市の美術でした。一方、印象派は、19世紀後半のフランス・パリを中心に、マネやモネ、ドガやルノワール、セザンヌらによって、日常的な経験を通して受ける印象や市民生活の喜びを率直に表現する、新しく起こったヨーロッパの近代美術でした。

本展は、日本とヨーロッパ、東西の都市文化が生んだ天才画家たちの作品を通して、大都市ならではの洗練された美意識の到達点を比較しつつ見渡そうとする、新たな試みです。当館コレクションの核となる印象派の名画と、初公開となる琳派作品を軸に、国内の寺院、美術館、博物館から代表的な作品を加えた、国宝2点、重要文化財6点を含む約100点の作品で構成されます。東西の美術を、「都市文化」というキーワードで再考する画期的な「琳派と印象派展」となります。

会場：6F・5F 展示室

開館時間：10:00ー18:00(毎週金曜日の20:00までの夜間開館は、当面の間休止を予定しています。

最新情報はウェブサイトをご確認ください) *入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日(11月23日、1月11日は開館)、11月24日、年末年始(12月28日ー1月4日)、1月12日

主催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館、日本経済新聞社

入館料(税込)：日時指定予約制

一般 ウェブ予約チケット 1,700円、当日チケット(窓口販売) 2,000円、学生無料(要ウェブ予約)

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日チケットを販売します。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*この料金で同時開催の展覧会を全てご覧頂けます。

Steps Ahead: Recent Acquisitions 新収蔵作品展示

会期：2021年2月13日[土]ー5月9日[日]



アンリ・マティス《ジャッキー》1947年 石橋財団アーティゾン美術館蔵（新収蔵作品）

アーティゾン美術館の新しいコレクションを一堂にご紹介します。当館の近年の収集は、印象派や日本近代洋画など従来の中心となるコレクションを充実させる一方で、抽象表現を中心とする20世紀初頭から現代までの美術、日本の近世美術など、コレクションの幅を広げています。それら新しいコレクションの一部は、開館以来徐々にご紹介してきました。しかし、まだお見せしていない作品があります。キュビズムの画家たち、アンリ・マティスのドローイング、マルセル・デュシャン、抽象表現主義の女性画家たち、瀧口修造と実験工房、オーストラリアの現代絵画、芸術家の肖像写真など。新収蔵品約120点を含む約250点で構成する本展は、さらに前進を続けるアーティゾン美術館の今をお見せします。

*展覧会タイトルを省略する場合は【Steps Ahead 新収蔵作品展示】とご記載ください。

会場：6F・5F・4F 展示室

開館時間：10:00ー18:00(毎週金曜日は20:00まで・予定) *入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日（5月3日は開館）

主催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

入館料：調整中

*日時指定予約制

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日チケットを販売します。

クロード・モネ ー風景への問いかけ オルセー美術館・オランジュリー美術館特別企画

会期：2021年5月29日[土]ー9月10日[金]



クロード・モネ《トゥールヴィルのロシュ・ノワール・ホテル》

1870年 オルセー美術館蔵

Photo© RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF



クロード・モネ《睡蓮の池、緑のハーモニー》

1899年 オルセー美術館蔵

Photo© RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Stéphane Maréchal / distributed by AMF

自然の中の外光の美しさに魅了され、その探求と表現方法の追求に生涯を捧げたクロード・モネ。印象派の巨匠が生み出した風景画は、伝統的な絵画のあり方を根底から覆し、新しい時代の世界観とその詩情を伝達する手段となりました。この展覧会は、オルセー美術館主席学芸員・学芸部長のシルヴィー・パトリが監修をつとめ、世界最高峰のモネ・コレクションを有するオルセー美術館の作品を中心に国内の作品と合わせて、モネの風景画の全貌を伝えようとするものです。

ル・アーヴル、アルジャントゥイユ、ヴェトウイユ、ジヴェルニー、ヴェネチアといったモネの画業の貴重な時代と場所をたどり、モネが各々の時代に各々の土地で何を見て、どのように描き、どのような主題をイメージに込めたか丹念に探ることにより、モネの風景画の特質を明らかにします。

会場：6F・5F展示室

開館時間：10:00ー18:00(毎週金曜日は 20:00 まで・予定)*入館は閉館の 30 分前まで

休館日：6月14日[月]、6月28日[月]、7月12日[月]、7月26日[月]、8月2日[月]

主催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館、日本経済新聞社

入館料：調整中

*日時指定予約制

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日チケットを販売します。

ジャム・セッション 石橋財団コレクション×森村泰昌 M式「海の幸」－森村泰昌 ワタシガタリの神話

会期：2021年10月2日[土]－2022年1月10日[月・祝]



森村泰昌《青春の自画像（青木繁/若者）》2016年 作家蔵

「ジャム・セッション」は石橋財団コレクションと現代美術家の共演です。その第二回に、1985年、ゴッホの自画像に扮するセルフポートレート写真を制作して以降、今日に至るまで、古今東西の絵画や写真に表された人物に変装し、独自の解釈を加えて再現する「自画像的作品」をテーマに制作し続ける森村泰昌を迎えます。森村は、青木繁《自画像》（1903年）、《海の幸》（1904年）にインスピレーションを得た作品を制作するなど、以前から当館の青木作品へ密かな想いを寄せていました。このたび、その森村が改めて《海の幸》と本格的に向き合い、当作品が制作された明治期以降の日本の文化、政治、思想などの変遷史を“森村式”、略して“M式「海の幸」”として形象化し、青木への熱い想いを新たなる作品シリーズへと昇華させます。

*展覧会タイトルを省略する場合は【ジャム・セッション M式「海の幸」－森村泰昌 ワタシガタリの神話】、もしくは【ジャム・セッション 森村泰昌 M式「海の幸」】とご記載ください。

会 場：6F 展示室

開館時間：10:00－18:00(毎週金曜日は 20:00 まで・予定)*入館は閉館の 30 分前まで

休 館 日：月曜日(10月11日、1月10日は開館)、10月12日、年末年始(12月27日－1月3日)

主 催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

入 館 料：調整中

*日時指定予約制

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日チケットを販売します。

「教育普及活動」ってなに？ 一生活ている美術館

会期：2021年10月2日[土]—2022年1月10日[月・祝]



ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルバンティエ嬢》1876年 石橋財団アーティゾン美術館蔵

美術館の「教育普及活動」という言葉を、聞いたことがありますか。美術館は、人とモノ、人と人、人と思い出を結びつけ、新しい物語をつくりだす力をもっています。いろいろな人たちに、美術へアクセスする道を用意し提供するのが教育普及活動です。アーティゾン美術館は、ブリチストン美術館時代から、コレクションを中心にして、ギャラリートーク（一般向け）、スクールプログラム（学校向け）、ファミリープログラム（家族向け）、アウトリーチ（館外活動）、ワークショップなどを続けてきました。今まで美術館や石橋財団アトリサーチセンターで積み重ねてきた様々な活動を展示室で一堂に並べ、代表的な美術作品とともにご紹介します。

会 場：5F 展示室

開館時間：10:00—18:00(毎週金曜日は 20:00 まで・予定)*入館は閉館の 30 分前まで

休 館 日：月曜日(10月11日、1月10日は開館)、10月12日、年末年始(12月27日—1月3日)

主 催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

入 館 料：調整中

*日時指定予約制

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日チケットを販売します。

石橋財団コレクション選

現在 2,800 点を数える石橋財団コレクションの中から印象派と 20 世紀の西洋絵画、明治以降の日本の近代絵画、第二次大戦後の抽象絵画、日本および東洋の古美術、ギリシア・ローマの美術などを、年間を通じて様々にご紹介します。

特集コーナー展示

4 階展示室の一部には特集展示コーナーを設け、2021 年度は以下の企画を予定しています。

青木繁、坂本繁二郎、古賀春江とその時代 久留米をめぐる画家たち

会期：2020 年 11 月 3 日[火・祝]—2021 年 1 月 24 日[日]



坂本繁二郎《放牧三馬》1932 年
石橋財団アーティゾン美術館蔵

本展では、ブリチストン美術館の創設者・石橋正二郎の故郷である久留米にゆかりのある画家に焦点を当て、永らく非公開だった青木繁「仮面スケッチ」の一部や、坂本繁二郎の絶筆《幽光》など、新たに収蔵した作品も初公開します。

開館時間：10:00—18:00(毎週金曜日の 20:00 までの夜間開館は、当面の間休止を予定しています。

最新情報はウェブサイトをご確認ください)*入館は閉館の 30 分前まで

休館日：月曜日(11 月 23 日、1 月 11 日は開館)、11 月 13 日、11 月 24 日、年末年始(12 月 28 日—1 月 4 日)、1 月 12 日

主催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

入館料(税込)：日時指定予約制

◆2020 年 11 月 3 日[火・祝]—11 月 12 日[木]

ウェブ予約チケット 500 円、当日チケット(窓口販売) 500 円、学生無料(要ウェブ予約)

*上記期間は 4 階展示室のみ公開、6・5 階展示室は休室します。この料金で本展を含む「石橋財団コレクション選」のみご覧頂けます。

◆2020 年 11 月 14 日[土]—2021 年 1 月 24 日[日]

ウェブ予約チケット 1,700 円、当日チケット(窓口販売) 2,000 円、学生無料(要ウェブ予約)

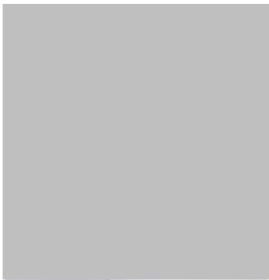
*上記期間は「琳派と印象派」展を同時開催いたします。この料金で同時開催の展覧会を全てご覧頂けます。

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日チケットを販売します。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

マリノ・マリーニの彫刻と版画

会期：2021年5月29日[土]ー9月10日[金]



マリノ・マリーニ《騎手》1952年
石橋財団アーティゾン美術館蔵
©SIAE, Roma & JASPAR, Tokyo, 2020 C3335

マリノ・マリーニは20世紀イタリアを代表する彫刻家で、数多くの版画も制作しました。石橋財団コレクションの所蔵する彫刻と版画を通じて、マリニの多彩な制作活動とその魅力をご紹介します。

開館時間：10:00ー18:00(毎週金曜日は20:00まで・予定)

*入館は閉館の30分前まで

休館日：6月14日[月]、6月28日[月]、7月12日[月]、7月26日[月]、
8月2日[月]

主催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

入館料：調整中 *日時指定予約制

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも
当日チケットを販売します。

挿絵本にみる20世紀フランスとワイン

会期：2021年9月22日[水]ー2022年1月10日[月・祝]



モーリス・ユトリロ《『葡萄酒、花、
炎』(ジョルジュ・デュアメルほか著)
のための挿絵》1952年刊
石橋財団アーティゾン美術館蔵

石橋財団コレクションの中には、ユトリロやデュフィなどフランスの画家たちが挿絵をほどこした、ワインや蒸留酒をテーマとする20世紀の挿絵本があります。この展示では、ユトリロらが挿絵を担当した『葡萄酒、花、炎』(1952年)ほか3冊をご紹介します。

開館時間：10:00ー18:00(毎週金曜日は20:00まで・予定)

*入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日(10月11日、1月10日は開館)、10月1日、10月12日、
年末年始(12月27日ー1月3日)

主催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

入館料：調整中 *日時指定予約制

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも
当日チケットを販売します。

広報用図版使用の注意

掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また文字載せやトリミングはご遠慮ください。
広報用画像データのダウンロードはこちら <https://faith-pr.com/artizon/schedule2021>

*著作権保護期間中のマリノ・マリーニの図版については広報事務局にお問い合わせください。



本プレスリリースについてのお問合せ先

「アーティゾン美術館」広報事務局(株式会社OHANA内)

担当：高橋・細川・妹尾 TEL: 03-6869-7881 FAX: 03-6869-7801

E-mail: artizon-pr@ohanapr.co.jp 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル5F

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館についてのお問合せ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦・小川・宮武

E-mail: publicity@artizon.jp 〒104-0031 東京都中央区京橋1-7-2